

場より下に徹致危官憲の不意極まり松東解散、暴行に依り蹂躪
しなされ六月三十一に可れた京都堂を土坊代表者会やも法合を
同時に解散した。

かこ費下の多動法軍は言論集会法社、自由と民衆かう徹底
的に奮闘せんし、憲法の條文は分や一兆の死に化せんしつゝある。
今や事法は益と悪化しつゝある。労働者の故の会民衆の生法は奮闘
迫る後知費下の多動法軍に對し憤激の書状拂はし全高に決
づゝあふ、かこの如き事法から果し何か先をまわ、樹木し標矢し
たふつとすね。

是は時代の進歩に逆し全民衆とて以て銀の鎖に縛り、何人
す。是下つ反動法軍に對し保つて土坊代表者会内の果敢方針に
對し茲に暴風に抗す。

昭和二十六年六月二十七日 労働農民党京都支部執行部

中より、

(本文へ戻)

全市土坊代表者会派の不意解散に對し

内務省、知事、警察官等々に

労働農民党京都支部執行部會抗議す。

三日は直ぐ多動法軍の官憲化軍演説會開催。

京都労働運動界に於て見れば、狂暴極まり、進退を失つ、此
も又かて見れば、根拠もあらず進退も失つ、土坊代表者会
の運動は遂に六月二十七日高森くらつた。全市土坊代表者会派を
開催するにまつた。

當人は未曾有の暴徒に對し我を信する七十有餘の土坊代表者三万人の
労働者が集る。天もここかまかりの先勢をあげた。然れども法合は働
かす。法軍に對し奮闘し、臨場から不意極まり解散を命じたる
この不意この暴徒に對し労働界、労働者、労働者、労働者、労働者